

荻生録造と沼津兵学校周辺の医師たち

樋口雄彦 2009年4月29日

1. 沼津兵学校をめぐる医師・医学生たち

(1) 沼津病院の医師たち

〔旧幕臣〕杉田玄端、林洞海、三浦煥、松島玄雄、桂川甫策、津田為春、篠原直路、
永井玄栄、田村英斎、小林重賢 ※林譲治

〔地元平民〕荻生洪斎、相磯格堂、杉村行三、清野一学、佐野寛道、渡辺東洋

(2) 沼津兵学校の医学資業生＝静岡病院生徒

三田佶、望月二郎、片山直人、滝野盤、加藤寿、塚原洪柿園、志村貞鏡、根岸定
静、諏訪頼永、山内定一、永井久太郎、松岡鑿、田口卯吉 実際に医師になった者

(3) 沼津兵学校附属小学校に学び後に医師になった人物

杉田盛、杉田雄、榊俣、榊順次郎、荻生録造、中野啓覚、神部精次郎、佐野誉

(4) 沼津病院で医学を学んだ人物

〔士族〕山崎塊一、白井直一、虎見洪平 ※他藩士：神戸文哉、小山内建

〔平民〕清野勇、楨正覚、酒井恭順、栗田懿畜、植松幸慶、富沢研道、石井成斎、
青木省三、宇野朗、野田洪哉、井上潔、瀬戸宇三郎、中西隆道、中村秀貞、
山田誠庵、多々良梅庵

2. 荻生録造について

(1) 荻生家のこと

元祖：天正18年(1590)豊臣秀吉小田原征伐の時、駅伝の役をつとめた荻生飛騨居六

本家：江戸時代、沼津宿の旅籠「元問屋」を営んだ荻生家(居右衛門を襲名)

分家：①斎造(弘斎)→②汀(弘道・洪斎・洪道・浩堂)→③録造→④規矩夫

①弘化3年(1846)没、②明治11年(1878)没、④昭和56年(1981)没

(2) 荻生汀と沼津藩・静岡藩

①「水野伊織日記」に登場する「荻生洪道」：慶応2年7月29日大坂から芸州へ出陣する沼津藩士氏名の中にあり、他にも沼津藩士金沢八郎の診察、水野伊織との交際記事多数あり ※慶応3年2月「御家臣姓名録」にはなし

②乙骨太郎乙日記に登場する「荻生浩堂(広道・弘道)」：明治元年10月4日「水野藩荻生島津両医来談」、8日「訪荻生浩堂不在」、16日「荻生小児来」、17日「広道子来殺鵝飲酒」、18日「広道小児来(中略)荻生書生及小児来」

③浜松病院の荻生汀：明治6年3月浜松紺屋町の荻生汀宅で仮病院を開業するとの浜松県布告(『浜松市史 史料編五』)

(3) 荻生録造(1859～1914)の学歴

明治2か3年 沼津兵学校附属小学校に入学

明治4年2月 外務省洋学校に入学、ドイツ語を学ぶ

明治7年7月 東京外国語学校に入りドイツ語を学ぶ(10年4月退学)

明治10年4月 東京大学医学部に入学(17年6月卒業)

明治17年6月 千葉医学校附属病院出仕となる